

県央・林業部トピックス（4月号）

特定外来生物講習会

令和5年4月4日（火）に、邑南町主催の特定外来生物捕獲講習会と有害鳥獣捕獲補助員講習会が行われました。

邑南町では狩猟免許をもっていない場合でも、本講習会を受講し捕獲従事者証を受け取れば、特定外来生物であるアライグマとヌートリアの捕獲が可能になります。

今年度も鳥獣専門指導員が講師となり、特定外来生物であるアライグマ・ヌートリアの生態と防除対策、鳥獣の捕獲に関する法律についての話をしました。

アライグマは、令和3年度までに県央管内で2頭しか捕獲報告がありませんでしたが、令和4年度の1年間で13頭捕獲されたこと、農業・生活被害の報告もあったことから、受講者の関心も高まっているようで熱心にメモを取りながら話を聞かれています。講習会後の質疑応答ではアライグマの罠の購入先や値段、餌の種類などアライグマ捕獲に対して意欲的な質問が多く寄せられました。

アライグマやヌートリアが増加した地域では農業被害・生活被害・生態系の攪乱など様々な問題が発生しています。従事者となった方たちが防除対策に取り組み、個体数の増加・分布拡大等による被害の深刻化を未然に防いでくださる事を期待しております。



講習会（捕獲に関する法律について）



講習会（アライグマの特徴について）



家の柱に登るアライグマ



アライグマ親子

県央・林業部トピックス（5月号）

高校生の林業学習（県立遼摩高等学校）

令和5年5月24日(水)、県立遼摩高等学校の2年生23名が県立農林大学校にて高校生の林業学習講座を受講しました。

チェーンソーや高性能林業機械の操作などの機械実習は農林大学校 林業科の2年生が指導対応しました。高校生たちは農大生との交流も楽しみながら、初めて触る機械に興味津々の様子でした。

指導対応した学生の中には遼摩高校出身者もあり、実習の後に行った意見交換の場では、農大へ入学するきっかけとなった実習や高校と農大の寮生活の違いなど様々な話題について卒業生から意見を聞くことができました。遼摩高校の皆さんにも、卒業生のように進路選択の参考となるよう色々な経験をして、より充実した学校生活を送ってほしいと願っています。

また、林業学習講座により、森林・林業に関する仕事への興味を持っていただけることを期待しています。



高性能林業機械の操縦実習



チェーンソーでの丸太切り実習



農林大生との意見交換

県央・林業部トピックス（7月号）

川本町外来生物講習会

令和5年7月13日（木）に、川本町主催の外来生物捕獲講習会が行われました。川本町では狩猟免許をもっていない場合でも、本講習会を受講し捕獲従事者証を受け取れば、アライグマ、ヌートリア、ハクビシンの捕獲が可能になります。

今年度も鳥獣専門指導員が講師となり、本県で問題となっているアライグマ・ヌートリアの生態と防除対策、鳥獣の捕獲に関する法律についての話をしました。

川本町内では特にヌートリアが農業被害が問題になっているため、捕獲以外に柵の対策方法や痕跡に関する質問も多く寄せられました。また、アライグマに関しても現時点では捕獲・被害の報告はないものの県央管内では川本町以外の市町では捕獲・被害があるため、最新の分布状況について興味を示されていました。

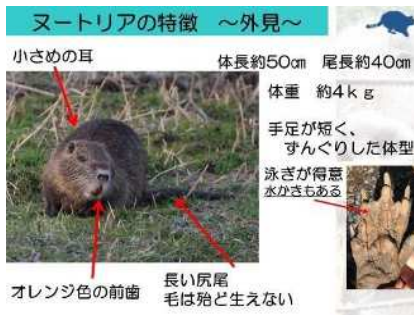
アライグマやヌートリアが増加した地域では農業被害・生活被害・生態系の攪乱など様々な問題が発生しています。捕獲従事者となった方たちが防除対策に取り組み、個体数の増加・分布拡大等による被害の深刻化を未然に防いでくださる事を期待しております。



講習会（捕獲に関する法律について）



講習会（アライグマの特徴）



講習会（ヌートリアの特徴）



講習会（捕獲されたヌートリア）

林業学習実施中!(県立矢上高等学校)

島根県では、年間80人以上の新規林業就業者の確保を目標に、高校での林業教育を支援しています。

令和5年8月22日(火)、県立矢上高等学校産業技術科の2年生34名が林業学習講座を受講しました。

午前は、利用間伐の伐採現場において、チェーンソーでの丸太切りを行ったり、フォワーダとプロセッサの操作体験を行いました。チェーンソーの操作説明を聞いているときは、少し躊躇している学生もいましたが、実際にチェーンソーを持って操作してみると、上手に丸太を切っていました。また、高性能林業機械は、どの学生も興味深々で操縦席に乗り込み、緊張しながらも真剣に操作をしていました。

午後は、島根県森林組合連合会江の川木材共販市場に移動して、出荷された木材の樹種やせりの方法等について学習しました。土場の見学では、はい積みしてある木材の末口を計測したり、木の硬さの違いなどを体験しました。

これからも引き続き、林業学習について支援していきたいと思います。林業講座や実習を通して、農林大学校等への進学や林業事業体への就職につながり、将来、島根の林業の担い手として活躍されることを大いに期待しています。



チェーンソー体験



プロセッサの操作体験



フォワーダの操作体験



木材市場での学習

県央・林業部トピックス（9月号）

国有林の森林計画に関する地域懇談会が開催されました

令和5年9月27日、島根森林管理署の主催により「国有林の森林計画に関する地域懇談会」が開催されました。この懇談会は令和6年度の江の川下流域森林計画区の地域管理経営計画の策定に先立ち、地域の意見を参考とするために開催されるもので、午前は美郷町の今山国有林において現地見学会が、午後からは川本町の悠邑ふるさと会館において地域懇談会が開催されました。一日を通し地域住民、素材生産業者、行政関係者15名程度の参加があり、活発な意見交換がおこなわれました。

見学会では、現地の今山国有林における施業の実施状況や、現在行われている伐採作業に用いられるプロセッサの実演、伐採地の見学をおこないました。また、国有林における造林コスト低減のための一貫作業の取り組み等が紹介されました。

午後の意見交換会では、主催者から森林・林業の取り巻く状況や、それを踏まえた次期計画案の策定に向けて説明がありました。参加者からは、国有林の施業と災害の関連についての質問や、地域住民に開かれた国有林への要望などの意見がでました。これ以外にも林業従事者不足の問題や広葉樹材生産など、幅広い内容について意見交換がなされました。

今回の地域懇談会の意見を踏まえ、令和6年度には次期地域管理経営計画が作成され、公表されることになっています。



集合場所（美郷町潮村）にて主催者あいさつ



プロセッサの実演



現地で島根森林管理署の取組を紹介



地域懇談会の様子

県央・林業部トピックス（10月号）

林業省力化技術実証事業現地研修会

10/12に大田市有林内で新型の地上レーザー測量機器（mapry LA03）を用いた林業省力化の実証研修会が江の川下流流域林業活性化センター主催で開催されました。

mapry LA03は、(株)mapryにより開発・販売されている、背負って林内を歩くだけで森林計測が行えるバックパック型のレーザー測量機器です。最短15分程度で1haの森林の計測を行うことが可能で、計測地点の地形データも同時に取得することができます。これを使用することにより、林業事業者の行う毎木調査や森林作業道開設前の現地踏査などの作業省力化が期待できます。

研修会には、林業事業者・市町・県などの林業関係者30名以上の参加がありました。午前は(株)mapryの職員によるLA03を実際に使った計測の様子を見学し、午後は志学まちづくりセンターへ移動して午前中に計測したデータの分析結果を確認しました。

取得したデータはUSBメモリに記録され、そのデータを解析することで立木の胸高直径や樹高、樹種などがパソコン上に表示されました。

研修会終了後には、流域管内の市町・事業体に機器が貸し出され、試用期間として実際に機器を使ってみることになっています。

今後さらに森林施業でのICTの活用が進み、林業省力化につながることを期待されます。



mapryLA03 使用方法の説明



背負われている機器がLA03（軽量・コンパクト）



分析方法の説明



分析結果を表示

県央・林業部トピックス（11月号）

シカによる林業被害の調査がスタートしました！

中国山地のシカの生息は、高い捕獲圧等により明治末期に姿を消したと考えられていましたが、近年は隣県からの分布拡大により県境の市町において、目撃や捕獲数が増加しています。そこで、循環型林業拠点団地や林業公社収穫事業実施地においてシカの生息状況や被害状況を把握して、被害対策につなげるための林業被害調査が全県でスタートしました。

県央事務所管内では、大田市1か所、川本町1か所、美郷町1か所および邑南町2か所の調査地を設定して調査を行いました。大田市と美郷町ではシカによる被害は確認出来ませんでした。川本町と邑南町では被害を確認しました。川本町では「わずかな被害」でしたが、邑南町では、造林地の「ほぼ全体」でシカによる樹皮剥ぎや主軸、枝葉の食害が確認されました。

県央事務所では、森林組合にシカの被害実態や被害対策を知ってもらい、今後の被害対策に向けて議論を進める必要があると考え、中山間地域研究センター鳥獣対策科の協力を得て、被害対策に係る研修会を開催しました。この研修会は堅苦しい感じではなく、意見交換では現場に携わる作業班長等から、いろいろな意見を出し合ってもらい議論しました。今後は、誰が何をすればよいか？現場でできることは何か？など継続性のある被害対策について関係機関と検討していく必要があります。



コウヨウザンの樹皮剥ぎ



ヒノキの樹皮剥ぎ



ヒノキの枝葉の食害



研修会の様子

県央・林業部トピックス（12月号）

シカのライトセンサス調査を実施しました。

中国山地のシカの生息は、高い捕獲圧等により明治末期に姿を消したと考えられていましたが、近年は隣県からの分布拡大により県境の市町において、目撃や捕獲数が増加しています。そこで、循環型林業拠点団地や林業公社収獲事業実施地においてシカの生息状況や被害状況を把握して、被害対策につなげるための林業被害調査が全県でスタートしました。

今後、計画的に被害対策を進めていくうえでシカの頭数、増減、分布範囲のモニタリングが必要で、県央事務所では昨年からは南町の大草・岩屋・伏谷地域で2ヵ月に一度ライトセンサスによる調査を行っています。

ライトセンサスは、日没後に低速走行の車からスポットライトを照らし確認できたシカの数をカウントします。多くの動物の眼は夜間ライトをあてると反射により眼が光るので遠くにいるシカも見つけることができます。

調査地は広島県境の大草・岩屋・伏谷の3箇所で、実施しています。今回12月の調査では大草で2頭(0.2頭/km)、岩屋で23頭(2.23頭/km)、伏谷で1頭(0.22頭/km)確認し、岩屋は高密度に生息しているという結果でした。岩屋では、ヒノキとコウヨウザンの植栽木にシカによる食害も確認しました。

岩屋地域周辺では拠点団地、国有林も含め、主伐・再造林が行われている箇所があり、他地域以上に早急な対策が求められます。

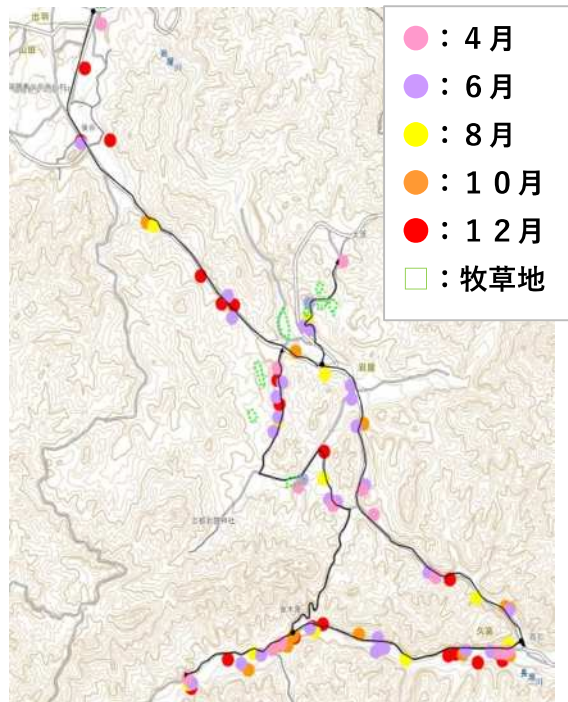
防護柵やツリーシェルターを使った対策も有効ですが、コストがかかる為、捕獲による対策が重要です。岩屋地域をはじめ多くの地域で猟師の高齢化が進んでいます。新たな担い手の確保、ベテラン猟師からの技術の伝承が今後の課題です。



調査風景



造林地内にいたメスジカ



岩屋地域での調査時のシカ目撃箇所

県央・林業部トピックス（1月号）

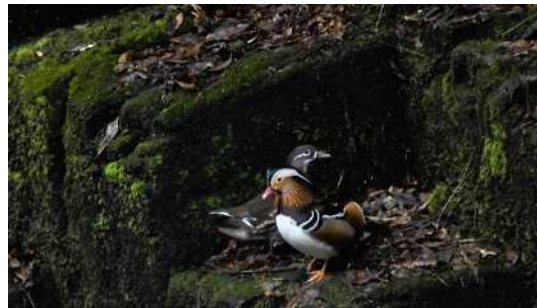
ガンカモ類の生息調査を実施しました。

1月13日、16日に「第55回ガンカモ類の生息調査」を実施しました。この調査は環境保全や鳥獣保護区設定、鳥インフルエンザ対策等に活用するため、昭和45年から全国各都道府県で実施している歴史ある調査です。対象種であるガン・カモ・ハクチョウ類の渡来地である河川、湖沼、湾で鳥の種類、数、調査地の環境を記録していきます。県央管内では江の川を中心に、二級・準用河川、ため池等で調査を実施しました。大田市・邑智郡で確認できたのは10種、599羽で例年並みの結果でした。調査全体のうち4割程度がカルガモでしたが、一部でオシドリやハシビロガモ、カワアイサなど色鮮やかな水鳥も確認できました。トモエガモは県央管内では確認できなかったものの、宍道湖では大量に飛来しています。トモエガモは2000年代に数が激減して、世界的に絶滅が危惧されていましたが、令和3年度に江の川で多くのトモエガモが確認されています。例えば繁殖地で数が増えたのか、日本での越冬地が変化したのか理由は分かりませんがトモエガモはオシドリ同様ドングリを好んで食べているので、シイ・カシ、コナラ・クヌギ類の多い島根県は魅力的な場所なのかもしれません。カモ類が多くなりすぎると、鳥インフルエンザや農業被害の懸念はあります。今後も推移を注視していきたいと思えます。

ガンカモ調査と合わせて、鳥インフルエンザのパトロールを実施しましたが、感染により死亡・傷病の鳥は確認できませんでした。今年は昨年と比べると、野鳥・家禽ともに鳥インフルエンザの報告件数は全国的に少ないですが、感染症の流行りは数年単位で波がありますので引き続き注意が必要です。



調査地（溜池）



オシドリ（雄、雌）



ハシビロガモ（雄）



コガモ、ハシビロガモ、マガモ

県央・林業部トピックス（2月号）

令和5年度高校生の林業学習が終了しました

島根県では、年間80人以上の新規林業就業者の確保を目標に、R2年度より高校生向けの林業学習に力を入れて取り組んでおり、2月5日（月）に邇摩高校、7日（水）に矢上高校でシイタケ植菌の講座を実施しました。

各校とも、県内のきのこの生産概要や生態等を学習後、三瓶こもれびの広場木工館の職員を実技の講師にお招きし、原木への植菌を実践しました。

参加した生徒からは、「きのこの分野について、もっと詳しく知りたい」「原木が想像以上に重くて驚いた」「林業に関わる仕事を就職先の一つに考えたい」等の意見がありました。

今年度、県央管内では、島根中央高校、矢上高校および、邇摩高校の3校で計14回の林業学習を実施しました。受講者は、山で木材を伐採する川上側(原木生産)の仕事から、自らの生活に木材が届くまでの川下側(木材流通加工・建築)の仕事まで幅広く学習しました。

これからも、林業に対して高校生の理解が深まるようアプローチを続け、就職先の選択肢の一つとなるように、「林業をやってみたい」と思うような経験が得られる講座・実習を開催できるよう工夫していきたいと思いをします。



座学の様子（矢上高校）



2年前に卒業生が植菌したシイタケの子実体
(邇摩高校)



実習の様子(左：矢上高校、右：邇摩高校)